

斜面工学研究小委員会第2回委員会議事録

日時：平成30年1月19日（金）14:00～17:00

場所：ルノアール四谷 4階会議室

出席者（敬称略，順不同）：北爪、稲垣、宇次原、石田、平岡、花本、大野、橋口、藤井、吉川、中野、美馬、上野、鈴木

報告事項

1. 委員自己紹介

各委員より自己紹介がなされた。

2. 前回議事録の確認

鈴木委員長より、第1回委員会議事録の報告がなされた。

熊本地震被害調査報告書は、発売中なので購入してほしい。1冊7,236円（税込定価）、6,520円（会員特価）、送料590円である。著者割引があり、著者割引額は5,700円（税込・送料込）である。本委員会で作成した部分については、本委員会のホームページに掲載する。

2017九州北部豪雨の現地調査を実施し、報告書を取りまとめている。2018全国大会研究討論会のテーマにする予定である。

2017全国大会の研究討論会「複合的自然災害に関する工学的視点からみた地域防災の有り方」は、参加者が100名程度と好評であった。

防災展2018の開催日は、2018/3/8～9としていたが、正しくは2018/1/21である。

3. H29重点研究課題（熊本地震）

鈴木委員長より、「2016熊本地震における社会基盤・システム被害の追跡調査と検証」の進捗状況について報告がなされた。

美馬幹事より、H29/12/9～10に実施した熊本地震災害調査結果の報告があった。阿蘇大橋付近の崩壊斜面と未崩壊斜面の違いを調べるため、微動アレイ探査結果、土質試験結果等の報告がなされた。

各委員より、地形の傾斜も影響している可能性がある、地表面下に空洞があると微動アレイ探査の結果が得られないことがある、常時微動アレイ探査結果から固有振動数を求めているかどうか、等の意見があった。

鈴木委員長より、片山委員が垂玉温泉付近で実施したドローンによる立体地形図の成果について報告がなされた。

3. 防災展2018

藤井副委員長より、防災展2018の説明がなされた。

場所：二子玉川ライズ ガレリア

日時：2018/1/21(日)11:00～16:00

出席：AM：鈴木、藤井、岩佐、後藤、PM：伊藤、荒木、吉川

ブースへの来訪者の人数を把握するためアンケートを行う。名前を記載して頂くことは難しいので、展示内容が「わかった」、「わからない」について「○」をつけて頂くようにする。各委員より、写真の撮影、カウンター、等の意見があった。

4. その他

鈴木委員長より、セミナーの案内がなされた。

名称：地盤品質セミナー

日時：1/27 10：00～17：20

場所：日本大学理工学部駿河台キャンパス 1 号館 CST ホール

内容：宅地に関するトラブルに関すること

中野委員より、講習会の案内がなされた。

名称：第 39 回緑化工法技術講習会

日時：2/1～2/2 の 2 日間

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター5F

審議事項

1. 「実験で学ぶ 土砂災害」の販売促進

藤井副委員長より、図書の販売促進について報告がなされた。売上部数は 1541 部であり、目標の 3000 部に達していない。今後の販促促進として以下の提案がなされた。

1) 委員が関わる講習会でパンフレットを配布する。

藤井副委員長が再度、パンフレットの PDF データを委員に送付する。

2) 以下の団体に販促するきっかけを委員で考える。

災害復興支援を行っている団体

消防防災関係団体

3) 防災講習会を企画し本の販売を行う。

豪雨災害により意識向上している地域（朝倉市など）

防災に積極的な自治体（横浜市など）

上野委員、稲垣委員より、横浜市で防災教育を開催したとき、消防関係の方が土砂災害について大変興味を持たれていた、消防関係者を対象とした講習会は有効、等の意見があった。

各委員より、土砂災害に見舞われた地域や崖の多い地域での講習会の開催、梅雨入り前の講習会の開催、地域の子供を対象とした防災教育の開催、NPO との協同による講習会の開催、学校のカリキュラムに防災教育が導入されるようになった、等の意見があった。

以上の結果、2017 九州北部豪雨で被災した地区の方々や消防を専門とする方々を対象とした講習会を実施する方向で調整する。

2. H30 重点研究課題（九州北部豪雨関連）

鈴木委員長より、H30 年度重点研究課題の募集について説明がなされ、応募の有無、テーマに

について意見交換を行った。

2017 九州北部豪雨に関すること、斜面施設の維持管理・アセットマネジメント・無人化・自動化・センサーを利用した点検、斜面内の地下水のメカニズム、避難者の心理、等の意見があった。

以上の結果、本委員会で応募する。吉川副委員長が申請書を作成する。九州北部豪雨をメインテーマとし、土砂災害実験でのアウトリーチ、地下水の作用、避難者の心理、避難の類似事例、斜面施設の点検等を含めた総合的な研究として申請する。水工分野や計画分野と連携する可能性もある。

その他の参考意見として、花崗岩・深層風化・変成岩の崩壊、谷底平野・中小河川の洪水等への対応、等の意見があった。

3. 行事企画・事業

(1) 中越地震に関するとりまとめについて

鈴木委員長より、岩佐委員が作成した「中越地震を振り返って」について紹介がなされた。趣旨は、中越地震から15年が経過しており災害の記憶が風化することのないように、また災害被災地への応援の意味を込めて、中越地震後の復興について整理してはどうか、というものである。

以上の結果、中越地震に関するとりまとめを実施する方向で調整する。具体的な作業内容については、今後詰めていく。

(2) 出版企画について

鈴木委員長より、本委員会で4冊目となる図書の出版を行うことについて提案がなされた。

対象者については、専門家向けが良い、等の意見があった。構成については、幅広い分野を対象とすることから、「斜面のはなしQ&A」のように、Q&A、How toの形式が良い、等の意見があった。内容については、斜面施設の維持管理方法、中越地震より様々なツールが増えていること、斜面の調査方法、野帳の取り方、環境・生態系に関すること、等の意見があった。

以上の結果、本委員会で出版する。次回委員会にて内容、担当等を議論する。

話題提供

(1) 秋田豪雨災害調査結果の報告

鈴木委員長より、土木学会のH29秋田豪雨災害調査結果（メンバー：鈴木委員長、野田先生、田口先生）について報告がなされた。

秋田県での被害額が過去最大、雄物川の氾濫、自然堤防の決壊、斜面崩壊、ため池の崩壊、アスファルトのめくり上がり、流木の堆積、沢埋め盛土の崩壊、道路面を流れる雨水による道路崩壊、等の被害について報告がなされた。

本報告書は本委員会のホームページに掲載する予定である。

次回委員会

4月上旬～中旬を予定。

以上